

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：うんなんコミュニティ財団

活動地域：島根県雲南市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

誰もが参加できる

地域資源循環のまちづくり

地域のありたい未来の実現のために **今年度取り組んだこと**

• **今年度チャレンジしたこと**

1. 自然、環境保全やごみ削減、エネルギー等に関する取組事業者・団体・個人へのヒアリング（70件）
2. 循環オンライン座談会、社会資源可視化WSの開催（5回）
3. 市民へのうなんみらい調査
→既存アンケート分析の他、Instagramを活用した参加促進やヒアリング、インタビュー、みらいコンテストの実施
1. 1～3及び2019年度集めた市民の声（4）をまとめた市民の行動指針「ローカルマニフェスト」作成
2. 来年度に向けたみらいコンテスト申請プロジェクト実現のためのWS設計、ローカルマニフェストを広げるための計画づくり

• **当初の到達目標に対する達成状況**

うなんみらいコンテストにおいて7プロジェクトの申請あり、来年度5プロジェクト実施予定

- (1) ごみの削減（コンポスト、リユース）
- (2) 居場所づくり（拠点型、イベント型）
- (3) 耕作放棄地の活用

中間報告回時点で (1) 再エネ・ごみなどの資源循環 (2) 地域のつながりを強化することそれぞれのニーズを把握していた。(1)(2)に関するプロジェクトアイデアがあり、来年度それぞれのプロジェクトで連携しながら実施していく。また、コンテスト申請者ではないがエコショップマップづくりに関心のある方々がおられ取り組みを進めていく。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	みんなのコンポスト		
	概要	<p>市民でごみについて考える機会づくりやごみを減らしていく活動を実施していく。</p> <p>家庭ごみの約4割が生ごみであり、廃棄物処理の際に水分を多く含む生ごみが熱エネルギーを下げている大きな要因となっている。また、令和14年度には雲南圏域ごみ焼却炉が新設される。生ごみを減らす活動の一つとして、市民団体が運営する畑「みんなの畑（仮）」の一角にコンポストを設置し、市民農園の堆肥として活用する。また、市内の小学校や農事組合法人、廃校活用グループ等とも連携する。並行して、事業者の生ごみ排出量や当該生ごみをコンポストにするにはどれぐらいの規模のものが必要なのか等を調査する。</p>		
	課題・ボトルネック	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害が出る可能性あり ・事業者から回収をする場合、行政制度の確認 	力を借りたい人物・企業像	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策

2	事業名	エコショップマップづくり		
	概要	<p>市内の量り売り店やごみを減らす飲食店などを教育分野と連携しながらマッピングすることにより、消費者がごみを減らすために買い方の工夫や選択ができるようにする。また、エコショップの発掘・推進も行う。</p> <p>エコショップの利用促進及び事業者同士のつながりづくり、事業者と学生とのつながりづくりができることにより、地域内経済循環、雲南の環境に関する取組を次世代につなぐことで当事者意識の向上、人材育成を同時に行う。</p>		
	課題・ボトルネック	来年度取り組む中高生が現段階で確定していない	力を借りたい人物・企業像	ごみ削減や地域内循環などに関心のある中高生

3	事業名	地域内発電の調査		
	概要	<p>雲南では電力エネルギー代金74億円が流出している（地域エネルギー自給率自体は約58%）。未来の子どもたちの暮らしも見据えた持続的な地域内でのエネルギー循環・経済循環の仕組みづくりを目指す。</p> <p>現在想定している地産地消のエネルギー事業は、小水力発電、木質バイオマス発電、バイオマス発電等により（方法も検討中）、地域自主組織などの交流センター1棟ぶんの消費電力を賄うものである。まずは小さく始めることにより、地域内でエネルギー循環ができるということを市民で共有しながら、外部依存を少しずつ減らしていく。現在は雲南市内事業者へのヒアリング、統計データ分析や現地調査を実施しており今後の実施に向け検討している。</p>		
	課題・ボトルネック	賛同者はいるが推進者がいない、資金不足	力を借りたい人物・企業像	<ul style="list-style-type: none"> ・出資者 ・市民電力事業関係者（調査等実施企業）

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 実施内容の具体的な内容や活動への思い等が似ている、同じ方向性の人・団体が繋がっていないこと
- できる範囲やペースで小さく活動している人・団体自体の認知度が低い場合は、出会うことそのものが難しいこと

地域のコンセプトを描く！

- 課題共有会議の開催や資源の可視化ワークショップ(付箋ワークや曼荼羅シートへの落とし込み等)をすることにより、お互いに良い影響を与えたり連携できる可能性の部分が見えたこと

事業のストーリーを語る！

- 構想はあるが実施主体不在(人材不足)のプロジェクトがいくつもある。今後さらなる人口減少により顕著に現れてくる

地域の目標を立てる！

- 今現在、市民側として何をすべきか、何に取り組みたいのかと並行して、具体的に行政が目標としている数値などを意識することで、事業やプロジェクトで目指すことも明確になった

今年度の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- どのように仕組み化をして行けば良いのかということ
各分野で担い手がないなか、貴重な人財がどこで活躍してもらえると一番良いのか、人がいなくてもできるような仕組みにするにはどうしたら良いのか、ということを変更して感じた
- 「地域の仕事」と「稼ぎ」の現状
小さな地域ほど、社会・福祉分野や環境分野は、今まで地域内や家庭内で支え合うことができていた名残から、「ボランティア活動（地域の仕事）」として奉仕的に物事が動くため、経済の視点が持ちにくい。一方、エネルギー関係などの「稼ぎ」に繋がるものは初期投資で億単位で資金が必要であるため、行政と上手く連携しないと困難であるということがよくわかった。
すでに熱を持ち実際に動いている市民の方々と小さくはじめて、たとえ大きな金銭的利益がなくとも、根幹の部分（環境のため、子どもや未来のため、など）に賛同する参画者・担い手を増やしていくことで、個々人が楽しみながら、全体の負担が軽減する活動をみんなで作っていくことが、第一歩として必要ではないかと考えている

今後の展望

(1) ローカルマニフェストを広げていく環境整備の実施

今年度、ヒアリング等や過去のアンケート分析等も行いながらできあがったローカルマニフェストを対話のツールとして活用する。これからも雲南で大切にしていきたいことをより多くの市民や、これから雲南でともに暮らす人たちとの循環型社会に向けた地域住民や企業のコミュニケーションを結び、共通言語にしていくことで、市民のアクションの担い手・支援者・応援者を育てることに繋げていく。

(1) ごみ削減に関する市民のアクション支援

- ・みんなのコンポストの実施
- ・リユースの場づくり
- ・考える場づくり((1)と連携)

ヒアリングから、暮らしの中で気軽にできる、習慣になるような環境改善やごみ削減の取組ニーズがあった。また、令和14年度廃棄物処理施設が新設になるが、新設の情報を知らない市民も多い。新設に関する意見交換の場や、事業のタネとして出てきたコンポストの実施やリユースの取組を通じごみを削減することによって、環境・社会・経済がどう変化するのかを市民で考えるきっかけにもしていきたい。